令和２年度　第４回スクラムスクール運営協議会　記録

令和３年３月 11 日(木)　19:00～20:00
会場：御前崎市文化会館　大ホール
進行：学校教育課（主席指導主事）

1　開会の言葉　（進行）

2　教育長あいさつ　（河原﨑 全 教育長）

今日は３月 11 日。ここ数日、東北の大震災のニュースやそれに関連したものが流れていました。あの頃は、『明日が当たり前に来ると思ってはいけない』ということを言われ、そう思っていました。日々の積み重ねの中でついつい意識が薄れがちですが、こういう区切りの時に改めて考えなくてはいけないと思っています。

現在この協議会では、子ども達の生活習慣の安定の上に『ゲーム障害・ネット依存の防止』ということを主テーマに取り組んでいます。その前は『早寝・早起き・朝ごはん』でした。この協議会の活動が認められ、文科大臣賞をいただくことになりました。例年、東京で表彰式があるようですが、こういう状況のため、表彰状が今月下旬届くということです。来年度お披露目をさせていただきます。表彰されたことを機会に続けていくということが一番大切だと思います。『早寝・早起き・朝ごはん』も学校・園・御家庭でも意識していただければ有り難いと思っています。

社会教育課で担当している『青少年の未来をつむぐ集い』とこのスクラムスクール運営協議会の活動をドッキングさせようと思い、脳科学の先生をお呼びしてゲーム依存等に関する講演会も計画していましたがコロナの関係でできませんでした。今までは別々にやっていたものを一つにまとめ、市を挙げて取り組んでいこうという動きの形ができたというのはよかったと思っています。来年度、また同じような形で企画をしていきたいと思っています。

この協議会の動きに合わせた形で養護教諭の先生方が、『睡眠についての研究』をしてくれました。今日の資料に静岡新聞の記事『子どもはスマホよりも睡眠』を付けさせていただきました。『早寝・早起き・朝ごはん』に取り組んだ時も「子ども達が夜更かしをする」「朝起きれない」ということから『ゲーム障害・ネット依存の防止』に繋がっていきました。今回もやはり『睡眠をとれば子ども達は活動ができるのではないか』『それを阻害しているもののひとつがスマホではないか』ということで取り組んでいただいています。一つの動きがあって、そこからまた別の大きな動きが生まれてくるということは本当に有難いと思っています。これもまたスクラムのひとつの輪が広がっていくひとつの表れかと思いますので、来年度、この会で養護教諭の先生方に発表をしていただく機会を設けることができればと思っています。

今まで園・学校・家庭・地域が連携を取るということで進めてきましたが、来年度から教育大綱・教育計画も少し修正を加え、スクラムの構成として、産業界、団体、ＮＰＯとかの方にも加わっていただいて、またひとつスクラムの輪を広めるというような形を考えています。いつも同じではなくて、毎年毎年少しずつマインドを変えながら前に進んでいけたらと思っています。それは過去を否定する事ではなくて、今までの流れを尊重しながら、またもう少し加えながらレベルアップできればと思っています。新年度も御前崎市全体として子ども達が健全に育っていけるよう御協力をお願いします。

3　協議会長あいさつ

浜岡中学校区　徳本 明久 会長

先日、浜岡中学校の落成式に参加させていただいきました。見学をさせていただいている途中、生徒達

が一人一人すごく気持ちのいい挨拶をしてくれました。すごく成長したんだなということを感じることができました。今年一年、難しい年頃の子ども達がプレハブ校舎という環境の中で過ごすということは大変なことだっただろうし、先生方も大変苦労されたのではないかと感じていました。仮設校舎が荒れているというようなことも全くなかったですし、生徒達とすれ違った時も本当に穏やかな感じで、やっぱりここ数年で浜岡中学校はすごく変わってきたということを感じることもできました。

これまで小学校から取り組んできたことが、中学生になってしっかり根付いているのではないかということも感じることができ、とても気持ちがよかったです。引き続き皆さんで協力して、園・小学校・中学校・地域等でしっかりスクラムを組んで取り組んでいけば、もっと住みやすい地域、子ども達がまたここに戻って来るような地域になるのではないかと思いますので、こういった機会を大切にしていきたいと思います。今日一日、よろしくお願いいたします。

御前崎中学校区　澤入 龍介 会長

先日、御前崎中学校で校長先生とお話をしていた時のことです。子ども達が下校する時間で、昇降口にたくさんの子が降りてきました。御中の子ども達はすごく挨拶を一生懸命してくれる子ばかりで、その時も大きな声で挨拶してくれました。

その時私は正直驚いたんですけれど、私がすれ違った子ども達は一人残らず、マスクをしていたのです。学校が終わって帰るというちょっとリラックスする時も、子ども達は全員欠かさずマスクをしていました。子ども達は、学校で決められたルールをちゃんと守って普段の生活ができています。翻って私はどうかというと、仕事が忙しかったりするとマスクを取っている時がありました。私はその時、少し恥ずかしく思いまして、これはいけないと次の日から必ずマスクをするようにしました。可能な限り外さないようにと今日までやっています。

よく我々は、子ども達に『健やかに育ってほしい』『睡眠をたくさんとって欲しい』『スマホはなるべく時間を短くしてほしい』とかいろいろ願うわけですけれど、そう願っている大人達は子ども達の規範となる生活態度ができているでしょうか。それ見ているからこそ、子ども達は大人のいうことを聞いてくれたり、耳を傾けたりしてくれるのだと思います。ルールを決めたり、目標を作ったりしても、それを考えている大人が規範にならなければ、きっと絵に描いた餅になってしまうでしょう。ＰＴＡ会長になる前、私は恐らくそんなことを考えることもなかったでしょうが、このＰＴＡ活動に入ることによって、考えることができました。そういうこども達の姿に出会えたお蔭です。教育とか、子ども達のことを考えてという前にまず、正しい背中をみせれるようにならなければいけないでしょう。私はこの一年でＰＴＡ会長を終わりますけれども、今後、地域の子ども達に会う中で、恥ずかしくない姿を見せなくてはいけないと思っています。

4　今年度の取組と次年度に向けて　　（別紙）

学校教育課長

学校教育課指導主事

5　指導・講話

中村道智太郎　静岡大学准教授

先ほど、お話がありましたように、ギガスクール構想というものが始まり、一人に一台端末いう時代がやってくることとなります。新しい状況なので、この時代に対応するのは先生方も難しいところもあるのではないかと思いますが、このコロナ禍の中で端末を使ってネットをちゃんと利用できるという、いわゆる情報活用能力がきちんと育っていくことが求められているので一丸となってそこに取り組んでいく必要があるのではないかと思っています。

ＯＥＣＤが提供している調査で、私が最近特にこれはと思った調査の結果があります。それはＩＣＴの学校内の利用率、日本はどれ位の利用率があるのか、学校内でＩＣＴを利用している利用率、日本はＯＥＣＤの中で、ほぼ最下位になっております。先進国の中で、学校の中で、タブレットやパソコンを使ったりする利用率がどの国よりも低いという状態にあるわけです。他方で、学校外のＩＣＴをどういうことに使っているのかという調査を見ると、学校外で使っているということがＯＥＣＤの平均よりも高くなっている、つまり、勉強に使っていないという調査の結果になっているということです。先ほど学校外での利用、これからの方針をいろいろなデータをもとに示してくださっていましたが、学校外で使わないというふうには恐らくならないので、うまく使っていくためにはどうすればいいかということを改めて考える必要があるのではないかと思います。

コロナ禍ですので、大学の授業は、この１年間圧倒的にオンライン、オンデマンドで授業をする機会が増えました。つまり、対面では行わずに画面を通して教育をするという比率が圧倒的に多くなりました。そうなると学生たちは、タブレットやスマホ・パソコンで教育を受ける、勉強をするという学び方に長けていく必要があるわけです。そこでいろいろな格差が当然生まれるわけです。そういうことが得意な学生や不得意な学生が同じ教育の機会を共助しているにもかかわらず、得意、不得意であるということによって学習の成果に差が出てしまうことはやはり教育者としては避けたいということで、そのあたりをうまく考えていく必要が出てきたということを強く感じる１年でした。

オンラインというと警戒したり、使い過ぎたらどうしようとか、変なことに使ったらどうしようと心配をしたりするのですが、他方でさまざまな可能性がそこにはあるのもまた事実だと思います。そういった機会をどうやってポジティブに子ども達と一緒に作っていけるかということも課題だと思います。ゲーム依存とか、ネット依存といったことはもちろん改善しなければいけないことは事実ですが、他方でそうした新たな可能性に目を向けるということも必要なのではないかと感じています。説明の中で印象的だった言葉『自律』ということがありました。自分で自分を律するという言葉だと思います。自分たちでルールを作って、自分達で進んでそれを守ることができて、新しいこの時代にふさわしい可能性を追求することができれば、それにこしたことはないと感じました。来年度もコロナの状況は、今年度とさほど変わらないかもしれませんが、新たな可能性を、この会、それから新しくつくられる会議の中で、みんなで一緒に作っていければと思います。

島田桂吾 静岡大学教職大学院講師

これからは、有事の対応を平時に生かしていくということが求められてくるでしょう。まさにこの１年は有事、非常事態です。ずっと続く新型コロナウイルス対策というところからみると、未知の対応、いつ終わるかわからない不安の中で、何が対策として正しいのかよくわからない中で始まって、それが結局ずるずるとこの１年我慢が続いてきたと思います。ただ一方で、デジタル化の話とか、学校行事の見直しとか、改めて学校とは何か、教育とは何かという原点を感じることもできたという側面もあったと思います。そういう意味で、今年度、やりたかったけれどできなかったというマイナス面もあったと思いますが、コロナ禍で見てきたこと逆に生かせるというところは、やっぱり平時にも生かすような視点というのが求められてくると思っています。

公共メディアとのつき合い方の話がありましたけども、やはり環境の変化に適応してくということがもう避けられないでしょう。もともとオンラインとかは、仕組みとしてあっても必要感がなかったので正直使っていませんでした。ところが必要に迫られてやってみた結果、デメリットも感じつつも、メリットを

感じることもありました。それが今は学生や園の子ども達も当たり前のようにあるところで、ギャップというのがどうしても生じてきてしまうのは避けられないところなのかなと思います。

睡眠時間の確保とか、生活習慣を確保するということは、これは人間本来の機能だと思いますので、そのところをみんなでどうやっていくかということを議論していくということはとても大事だと思います。その中でスマホのルールとか扱い方を単に一元化していくということでは、子ども達とのギャップをなかなか埋められないのかもしれません。そういった意味で子ども達がどういうふうに考えているのかということや子ども達自身から解決策が出てくるような仕掛けもいずれは必要になってくるのかもしれません。思いの違いというのもあるかもしれないので、それを埋めていくには、やはり対話を積み重ねていくしかないのかもと思っています。

この御前崎のスクラムスクールという文化をぜひ継承していただきたいということとともに、このやり方を子ども達自身が改善できるようなものがいずれ出てくればいいなと思っています。スクラムに６年位関わらせていただいていますが、すごいなと思うのは大人達が自分の子どもだけではなく、御前崎の子ども達の難しい生活習慣の課題について真剣に議論しながら、挨拶運動だとかアンケートなどを実行に移していく、まさにこれは問題解決学習計画ですけれど、それを地でいっている事例だと思います。

学校種も違えば立場も違う人達が議論しながら最適解を探しながらやっていくという姿は、やはり答えのない時代を生き抜くすべとしては今のところこれしかないのかもしれないと思っています。御前崎の子ども達のためにという共通の目的というか、思いがあるので皆さんも動きやすいと思います。ただそれを子ども達がそれをどう感じているのか、何かをしてあげるという関係よりも一緒にやっていくという子ども達がどうなのかということが難しいと思います。まず子ども達自身が自分たちで解決していきたい、自分達はこうしたいけれど、大人の皆さんはどう思いますか？というような声かけがあったりすると、双方向の関係になってもっともっとスクラムが広がっていくのではないかというふうに思っています。また、そういう文化が十分に６年のスクラム協議会の中で根付いてきたのではないかと思います。また、来年度からは学校評議員ベースで学校スクラム協議会がスタートされるということで、これがまた学校ごとできてくると、学校ごとの中で、学校と保護者と地域の皆さんがその学校の課題を協議し、課題を解決するための手段をみんなで考えて実行していくというのことを各学校レベルで進めていっていただきたいと思います。それをまたこの御前崎スクラム協議会で共有しながら、データとしてどういうふうにしていけばいいかということを考えることで、重層的な支援ができてくるのではないかなと思います。御前崎スクラム協議会は、時代に合わせながら進化している姿を感じました。是非また来年度以降もスクラムを組みながら、皆で子ども達を育てていくという実践を私自身も勉強させていただきたいと思っています。